

中学校第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学社会科教育専修3回生 島田望希

1. 単元名 「生野区の空き家を減らそう」

2. 単元の目標

○生野区で現在深刻になりつつある空き家問題の現状について理解することができる。

〔知識及び技能〕

○区役所や地域の人からの話をきいて問題点やニーズを分析し、生野区の空き家の新たな活用方法を自分たちの力で考えることができる。〔思考力・判断力・表現力等〕

○自分たちが住んでいるまちの魅力やそれを守ろうとする人の思いに気づき、地域の一員としてまちづくりに積極的に関わろうとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、大阪市生野区の空き家問題が焦点となっている。生野区は、その戸数に波はあるものの、大阪市内でも最も空き家の数が多い区のひとつである。年々人口が減少する一方で高齢者人口が増加し、2020年時点では高齢者人口の割合は31%を上回っている。これは大阪府内でも非常に高い数値であり、空き家が増える大きな要因の一つとなっている。また、建て替えをするにしても、生野区内の1割以上の家屋が古い木造長屋であることから土地と建物の権利者が異なっていたり、建築基準法の改定により道幅を広くとって建て替えなければならないなど、制約や手間が多く建て替えづらい現状がある。これらが空き家がなかなか減らない要因のひとつであるが、下町情緒あふれるまちなみを大切にしてきた生野区であるからこそ生じるものであると考えられる。生野区役所はそんな生野区のまちなみを大切にしつつ、空き家対策に力を入れている。空き家がさまざまな人に活用されるように、空き家シンポジウムやセミナーを開催したり、空き家の建て替えアイデアをまとめたファイルを作成したり、相談所を設けたりしているのである。

本単元では、このような特色をもつ生野区というまちを見つめなおし、実際に空き家を活用してみるなど、空き家に関連したまちづくりに関わることを通して、地域の一員である自覚をもち、地域の人々とのつながりを大切にする態度を身に着けることを目的とする。

(2) 生徒観

生野区に住む生徒たちにとって、空き家はごく当たり前のように日常に溶け込んでいる。しかし、溶け込みすぎるあまり生徒自身には空き家に対する恐怖感がさほどなく、空き家が持つ危険性に気が付いていない。

誰にも管理されず老朽化していくだけの空き家は、倒壊する恐れや浮浪者が住み着く恐れがあり、まちの治安も悪くなる一方である。

また、生野区ならではの下町情緒あふれるまちなみに愛着を持つ生徒も少なく、そ

れゆえに生野区を自分たちで守り、つくっていききたいという思いがさほど強くない。生野区を生徒たち自身が守っていかなければならないという自覚を持たせるためにも、生野区の魅力に気づくことを始めとし、空き家を持つ危険性を理解し、それらを新しく活用させる活動を通して、自分たちが住むまちを自分たちがつくっていくよるこびを感じさせたい。

(3) 指導観

指導する際は、生野区の空き家対策に生野区役所がどれだけ力を入れているのかを感じてもらうために、生野区役所の人から直接話を聞くなど、インターネットだけでは手に入らない情報を取り込ませたい。空き家の危険性に始まり、生野区の空き家が増えて減らない原因、実際に空き家を取り壊したり建て替えたりした際に起きた出来事などの実践例を区役所の人には話してもらう。また、生徒自身が空き家の活用方法を編み出す際には、地域の人々にはどのような場所の需要があるかインタビューから考察させることで、地域の住民の多様性に気付いたりつながりを持つきっかけにしたい。

さらに、生徒が考えた空き家の活用方法は、区役所や地域の人々に発表し、意見をもらった後、実際に形にさせることとする。自分たちで考えたことを実践する経験をすることで、より空き家活用に豊かなイメージや興味を持たせるとともに、生野区のまちづくりにこれからも関わっていくためのきっかけとしたい。

(4) ESD との関連

○本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- ・多様性：地域には多様な文化的背景を持っている人がいる。
- ・有限性：「下町情緒あふれるまちなみ」が何十年もの間大切にされてきた。
- ・連携性：一部の人が頑張るのではなく、地域のみんなで頑張って守っていく。

○本学習で育てたい ESD の資質・能力

- ・未来像を予測して計画を立てる力：これから先、空き家問題が深刻にならないように、自分たちには何ができるか考える。
- ・つながりを尊重する態度：地域の人々とのつながりを持ち、自分たちでまちを守るとはどのようなことか考える。

○本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・世代間の公正：人々の努力によって大切にされてきたまちを守りつつ、安全で暮らしやすいまちに更新していかなければならない。

○達成が期待される SDGs

11. 住み続けられるまちづくりを (11.7 2030 年までに、女性、子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。)

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 生野区の空き家問題について理解している。</p> <p>② 空き家を減らすための取り組みについて調べられている。</p>	<p>① 生野区役所の人の話から、生野区の特徴やそれらが維持されてきた裏にある人々の努力について考察している。</p> <p>② 地域の人々に直接インタビューすることで、今の生野区に求められていることは何か考察している。</p> <p>③ 調べたことをもとに、生野区の空き家を減らすための取り組みを自分たちなりに考え、地域の人に伝わりやすいように工夫して表現している。</p>	<p>① 今まで人々の努力によって大切にされてきたものや生野区の魅力に気づき、自分で考える空き家対策に反映しようとしている。</p> <p>② 地域の人々との交流をきっかけに、自分も地域の一員である自覚を持ち、生野区を守るためにできることを積極的に発信しようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全 15 時間）

	学習活動	指導上の留意点	評価
<p>第一 次 (3)</p>	<p>○生野区のまちなみの特徴や良さに気づく。</p> <p>・生野区を探検することで、まちなみにどのような特徴や良さがあるのか気づく。</p> <p>○生野区の空き家の現状について知る。</p> <p>・生野区にある空き家の写真を見て、その外観から空き家が与える影響を考える。</p> <p>・空き家を減らすために行われている取り組みを、生</p>	<p>・他の地域（特に大阪府内）に比べてどのような違いがあるのかを見つけることを意識させる。</p> <p>・できる限り通学路上の空き家の写真を使い、地図も提示することで身近なものであることを認識させる。</p> <p>・第一時で発見した良さが空き家の存在により霞みかねないことを理解させる。</p>	<p>ワークシート (知・技①②)</p> <p>観察・コメントシート (思・判・表①)</p>

	<p>野区内外問わず調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を減らす取り組みを促進する生野区役所の人のお話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国にさまざまな空き家活用方法がある一方で、生野区の空き家がなかなか減らない理由などを、区役所の人のお話から探らせる。 ・空き家対策の実践を通して目の前にした困難やよかったと思えた経験談なども話してもらうよう打ち合わせしておく。 	
第二次 (4)	<p>○生野区を見つめなおし、生野区に合った空き家の活用方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生野区にどのような人が住んでいるのか調べて整理した後、どのようなことや場所を求めているのかインタビューする。 ・生野区のニーズに合わせた空き家の活用方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問内容は大枠だけでも事前にまとめさせ、インタビューの方法なども指導しておく。 ・対象は自治会長、実際に空き家事業を実践している人、周辺に住んでいる地域住民とする。 	<p>観察 (思・判・表②)</p> <p>ワークシート (主①)</p>
第三次 (8)	<p>○グループで考えたことを生野区の人にプレゼンし、意見を仰いで立案修正をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次で考えたことを、地域の人々に発表するためにまとめる。 ・学校に地域の人々や区役所の人に公開形式で発表し、意見を仰ぐ。 ・発表に対する地域の人々 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の活用方法に限定せず、「空き家をつくらないためにできること」など、空き家に関することであればよしとする。 ・発表形式は問わないが、見に来る人全員に発表内容が見えるようにする。 ・招待するためのポスターなども生徒自身に作らせる。 ・地域の人々の意見をきいて 	<p>観察・成果物 (思・判・表③)</p> <p>観察 (主②)</p> <p>観察</p>

<p>の意見を反映させ、立案したものを修正する。</p> <p>○自分たちで考えた空き家の活用方法のうち一つを実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修正したものをもう一度発表し、どの案を採用するか話しあい、決定する。 ・活用方法を実践するための計画をたてる。 ・計画に沿って実践する。 <p>○全体のふり返しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習をふり返し、どのようなことを考え、意識が変わったかを作文に書く。 	<p>反映させることで、よりニーズに近いものに仕上げさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの時間を設けた後、多数決で決定する。 ・必要なもの、工程、期限など、基本的なことは生徒だけで考えさせ、教員はサポートに徹する。 ・安全面などに配慮する。 ・地域の人との協力が必要な場面では迷わず依頼し、さらに交流を深めていく。 ・今までのワークシートも手掛かりとさせる。 ・原稿用紙の使い方も同時に復習させる。 	<p>(思・判・表②)</p> <p>観察・ワークシート (主②)</p>
--	--	---